

令和5年度古河市水道事業決算の概要

1 業務の状況

給水戸数は62,700戸（対前年度比514戸増）、給水人口は137,033人（対前年度比417人減）で、給水普及率は96.0%（対前年同率）となっており、年間で1,703万 m^3 （対前年度比40万 m^3 増）の給水を行いました。

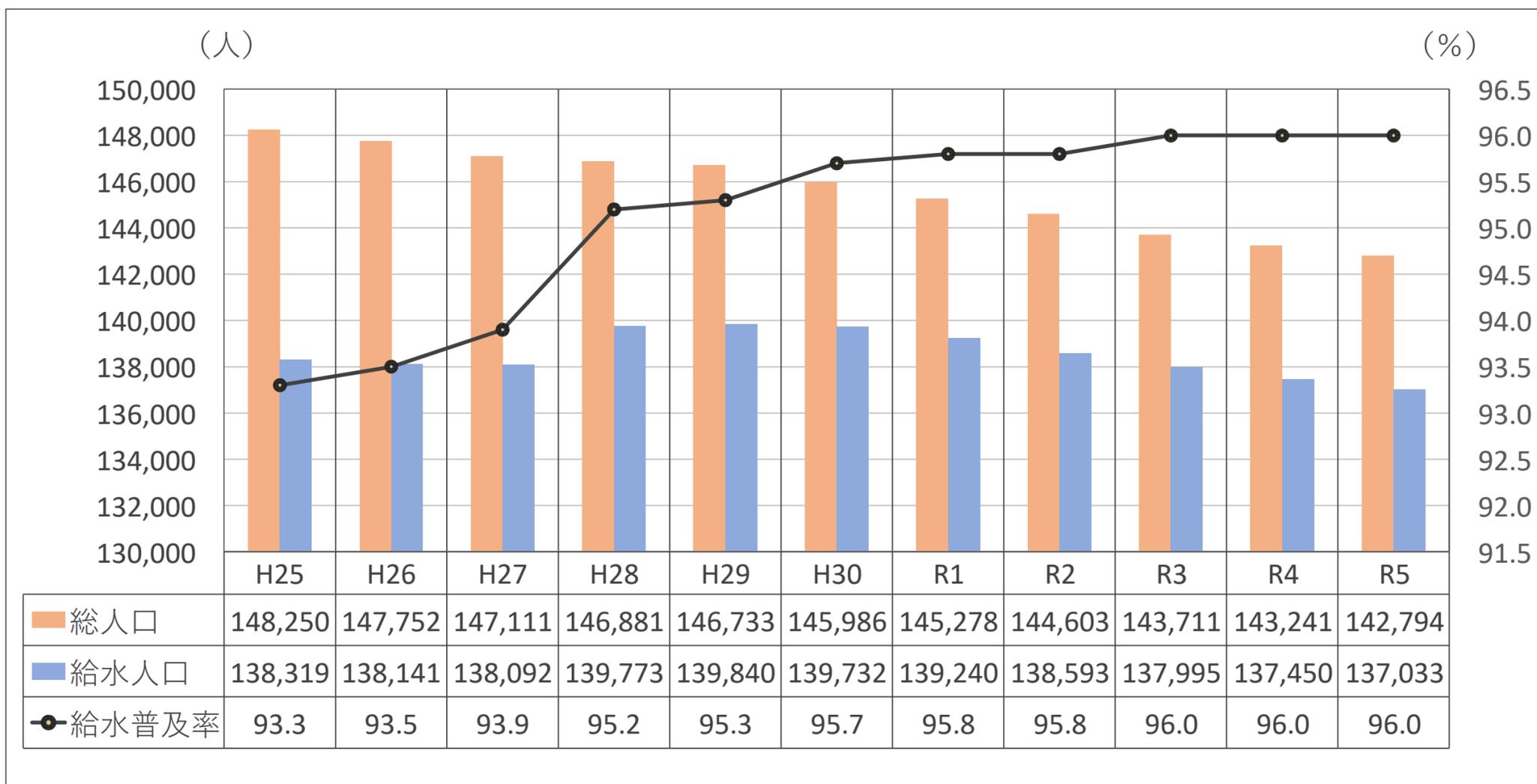
○業務の状況 対前年度比（令和5年度末現在）

※数値の積算には野木町の一部地域を含む。

| 項目 | 令和5年度 | 令和4年度 | 増減 | 備考 |
|----------------|------------|------------|---------|-------------|
| 給水戸数 (戸) | 62,700 | 62,186 | 514 | |
| 給水人口 (人) | 137,033 | 137,450 | ▲ 417 | |
| 給水普及率 (%) | 96.0 | 96.0 | 0.0 | 給水人口／人口×100 |
| 総給水量 (m^3) | 17,031,371 | 16,629,968 | 401,403 | |

○給水普及率の推移（平成25年度以降）

※数値の積算には野木町の一部地域を含む。



▶ 総人口は毎年度継続して減少、給水人口は平成29年度以降減少に転じています。

▶ 給水普及率は給水人口の減少に伴い、平成29年度以降上昇が鈍化しています。

2 決算規模

(ア) 収益的収支

収益的収入は27億3千9百万円で、前年度と比べると1千5百万円減少（0.6%減）となっています。収益的支出は23億8千7百万円で、前年度と比べると3千3百万円増加（1.4%増）となっています。

○収益的収支 対前年度比（消費税込、単位：千円）

| 項目 | 令和5年度 | 令和4年度 | 増減 | 増減率 |
|----------|-----------|-----------|----------|--------|
| 収益的収入 A | 2,739,399 | 2,755,150 | ▲ 15,751 | ▲0.6% |
| 収益的支出 B | 2,387,032 | 2,353,914 | 33,118 | + 1.4% |
| 収支差引 A-B | 352,367 | 401,236 | ▲ 48,869 | ▲12.2% |

▶ 主な増減理由

- ・収入～給水収益の減少【▲2千1百万円】（令和4年度物価高騰等対策基本料金免除の影響額を除くと、対前年2千1百万円の減）
- ・支出～思川浄水場設備点検費の増加【+4千4百万円】

(イ) 資本的収支

資本的収入は6億6千3百万円で、前年度と比べると1億1千2百万円増加（20.5%増）となっています。資本的支出は16億2千2百万円で、前年度と比べると2億3千7百万円増加（17.1%増）となっています。また、収支不足額9億5千8百万円は損益勘定留保資金（減価償却費等の現金支出を伴わない経費）等で補てんしました。

○資本的収支 対前年度比（消費税込、単位：千円）

| 項目 | 令和5年度 | 令和4年度 | 増減 | 増減率 |
|----------|-----------|-----------|-----------|--------|
| 資本的収入 A | 663,660 | 550,870 | 112,790 | +20.5% |
| 資本的支出 B | 1,621,829 | 1,384,950 | 236,879 | +17.1% |
| 収支差引 A-B | ▲ 958,169 | ▲ 834,080 | ▲ 124,089 | ▲14.9% |

▶ 主な増減理由

- ・収入～企業債の増加【+1億円】（建設改良費の増）
- ・支出～南摩ダム水源地域整備事業負担金の増加【+2億4百万円】

▶ 令和5年度の主な建設改良事業

- ・石綿セメント配水管布設替工事【5億4千2百万円】（令和7年度完了予定 進捗率78.4%）
- ・思川浄水場計装薬注設備更新工事【5千万円】（令和4～6年度工事 総額8億8千万円）

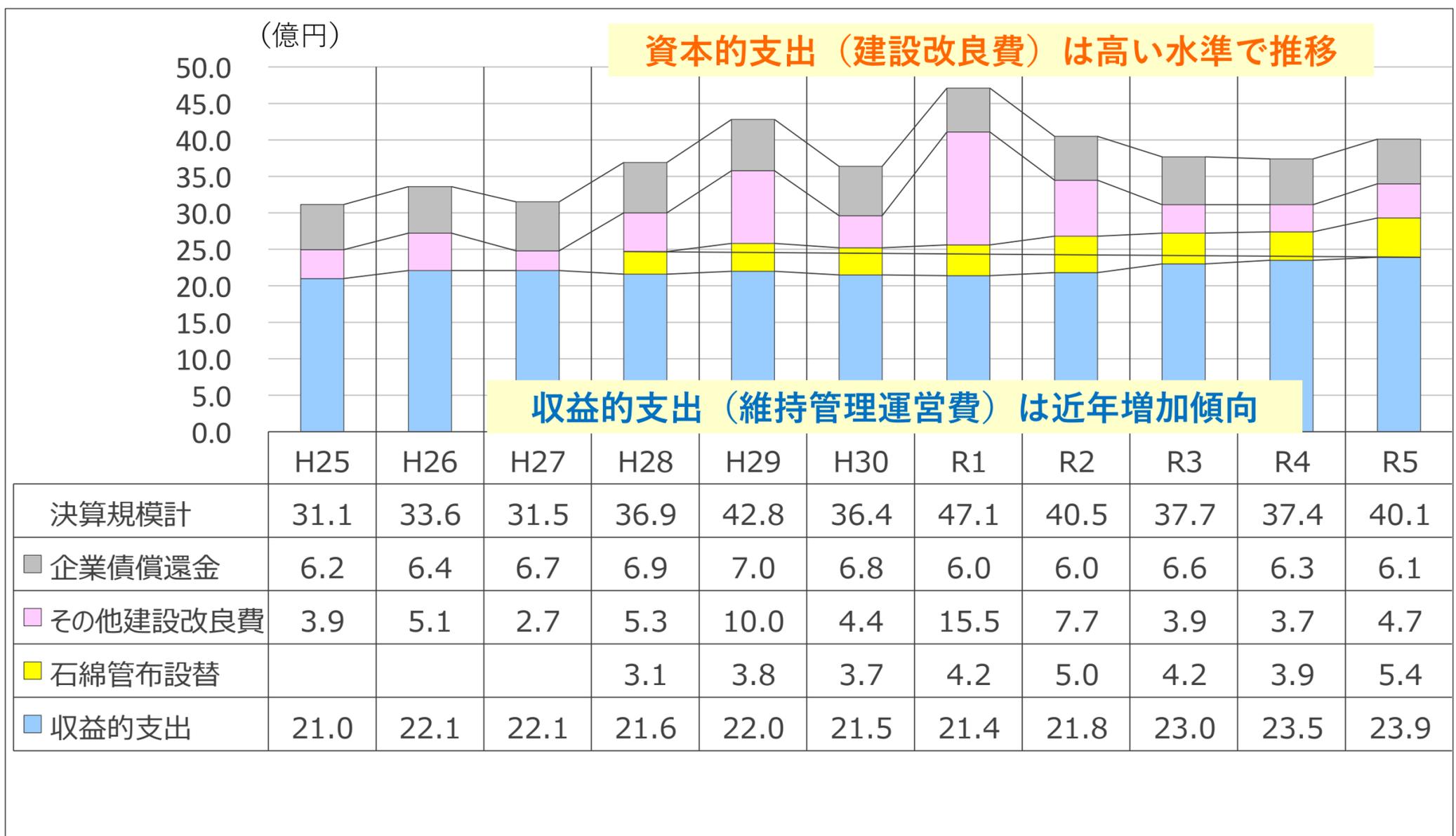
(ウ) 決算規模（支出）

決算規模は40億9百万円で、前年度と比べると2億7千万円増加（7.2%増）となっています。

○決算規模（支出）対前年度比（消費税込、単位：千円）

| 項目 | | 令和5年度 | 令和4年度 | 増減 | 増減率 |
|-------------|------------|------------------|------------------|----------------|--------------|
| 収益的支出 | A | 2,387,032 | 2,353,914 | 33,118 | +1.4% |
| 資本的支出 | B | 1,621,829 | 1,384,950 | 236,879 | +17.1% |
| 決算規模 | A+B | 4,008,861 | 3,738,864 | 269,997 | +7.2% |

○決算規模（支出）の推移（平成25年度以降）（消費税込、単位：億円）



- ▶ 収益的支出は、物価高騰等の影響により増加傾向となっています。
- ▶ 資本的支出は平成28年度以降、石綿セメント配水管の布設替事業費及び浄水場設備更新工事の実施により高い水準で推移しています。
- ▶ 令和4年度から、思川浄水場計装薬注設備更新工事を実施しており、建設改良費は引き続き高水準で推移することが見込まれます。

3 経営状況

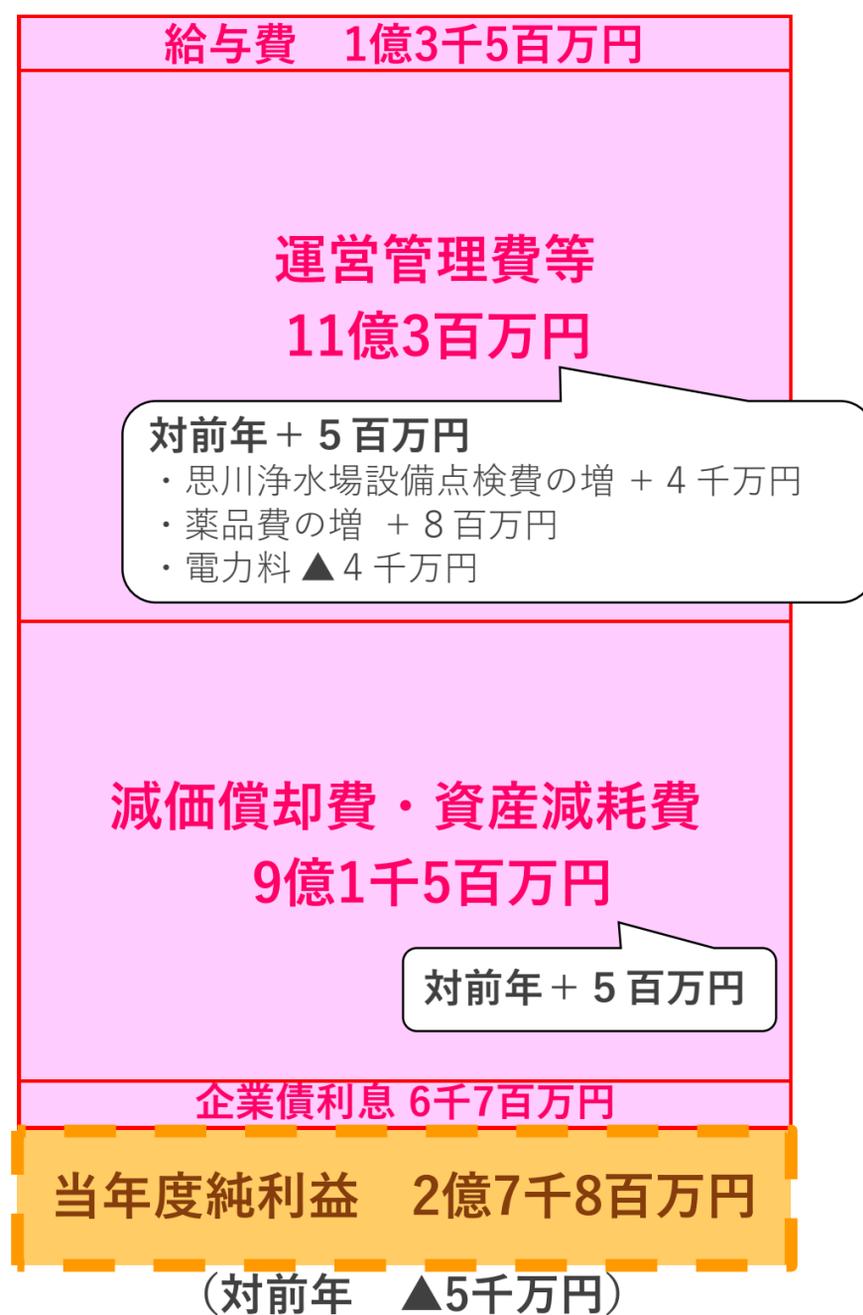
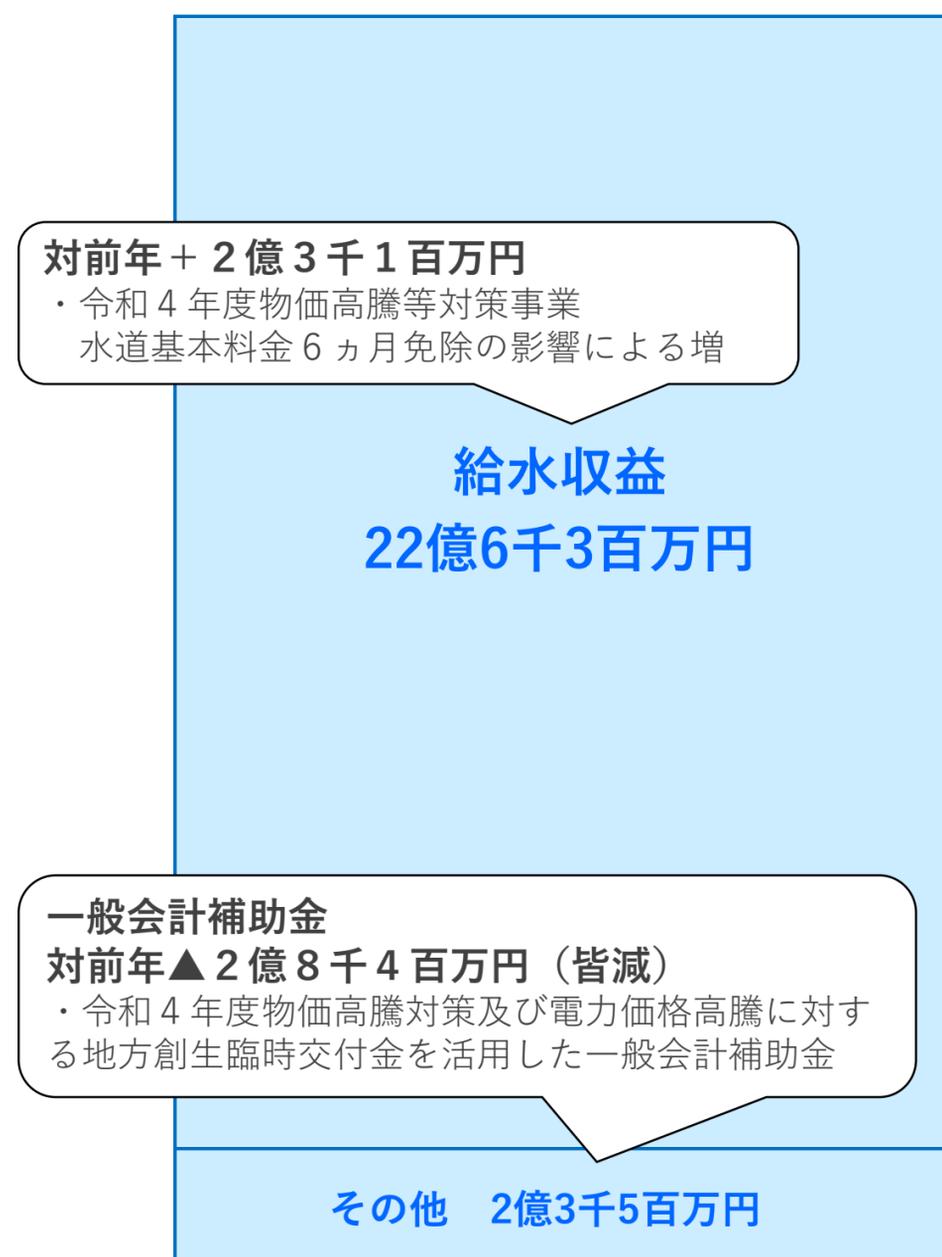
(ア) 損益の状況

収益は24億9千8百万円で、前年度と比べると4千2百万円減少（1.6%減）となっています。費用は22億2千万円で、前年度と比べると8百万円増加（0.4%増）となっています。以上の結果、当年度純利益は2億7千8百万円で、前年度と比べると5千万円減少（15.2%減）となっています。

○損益の状況（消費税抜）

収益 24億9千8百万円
(対前年 ▲4千2百万円)

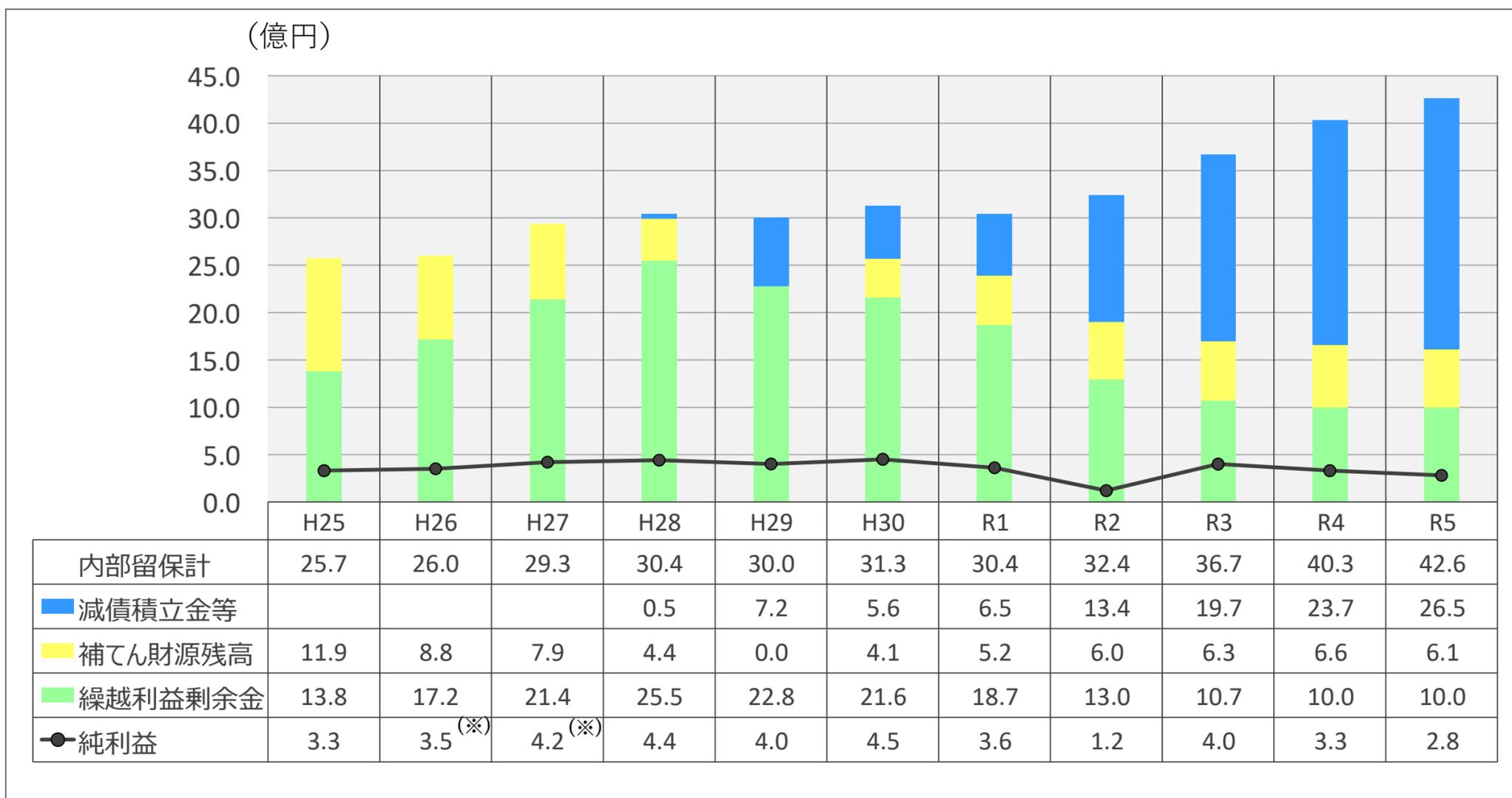
費用 22億2千万円
(対前年 +8百万円)



○繰越利益剰余金（単位：千円）

| 区 分 | | 金 額 | 備 考 |
|----------------|-------|-----------|--------------------|
| 当年度純利益 | A | 278,312 | |
| 前年度繰越利益剰余金 | B | 1,000,395 | |
| 減債積立金積立（予定） | C | 278,000 | 思川開発負担金に備えた積み立て |
| 当年度繰越利益剰余金（予定） | A+B-C | 1,000,707 | 年間給水収益約20億円の1/2を留保 |

○利益及び内部留保の推移（平成25年度以降）（単位：億円）



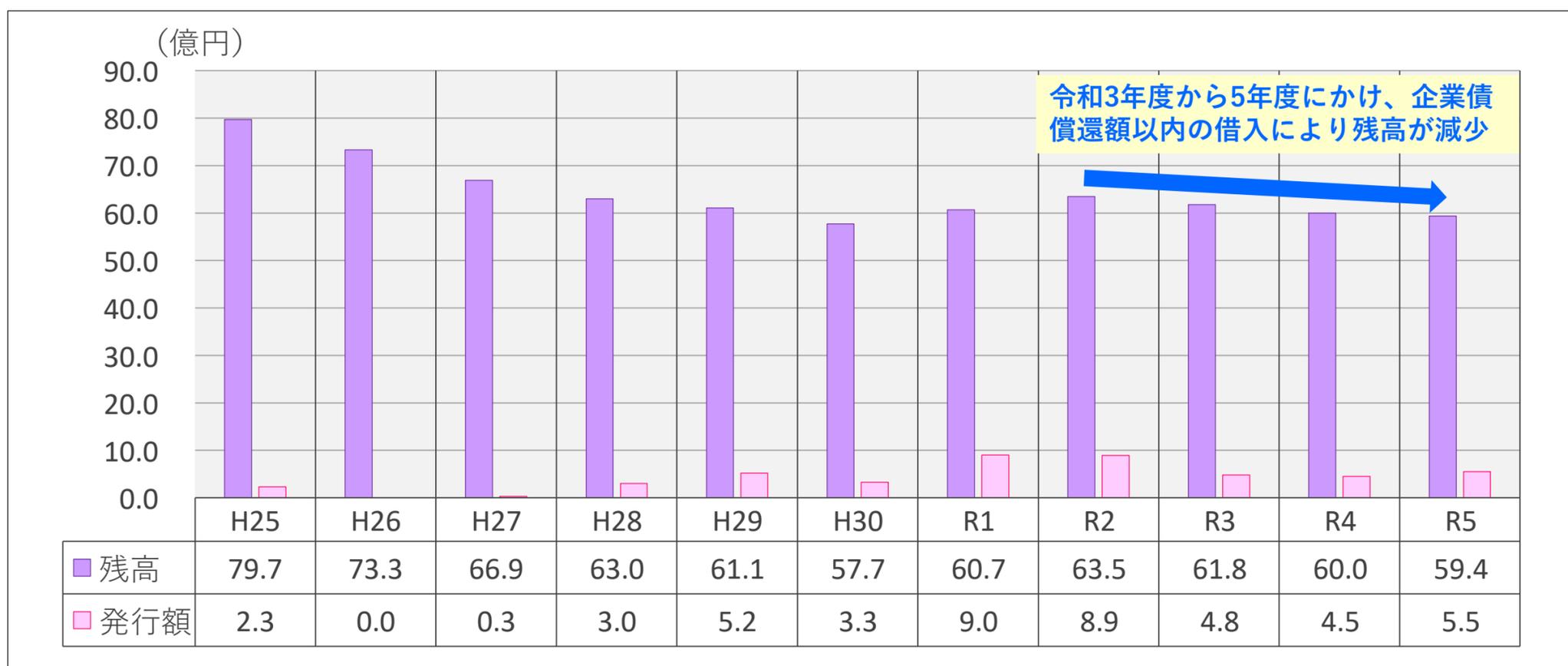
(※)H26及びH27の繰越利益剰余金は会計制度改正による影響額を控除し、実質的な剰余金額としました。（▲20.2億円）

- ▶ 純利益は毎年度3億円前後で推移しています。
- ▶ 令和7年度から発生が見込まれる思川開発負担金に備え減債積立を継続して実施しています。
- ▶ 繰越利益剰余金は年間給水収益約20億円の2分の1にあたる10億円を維持しています。

(イ) 企業債の状況

令和5年度発行額は5億5千万円で、前年度と比べると1億円増加（22.2%増）となっています。企業債残高は59億4千万円で、前年度と比べると6千万円減少（1.0%減）となっています。

○企業債残高の推移（平成25年度以降）（単位：億円）



(ウ) 給水収益の状況

給水収益は24億9千万円で、前年度と比べると2億5千4百万円増加（11.4%増）となっています。

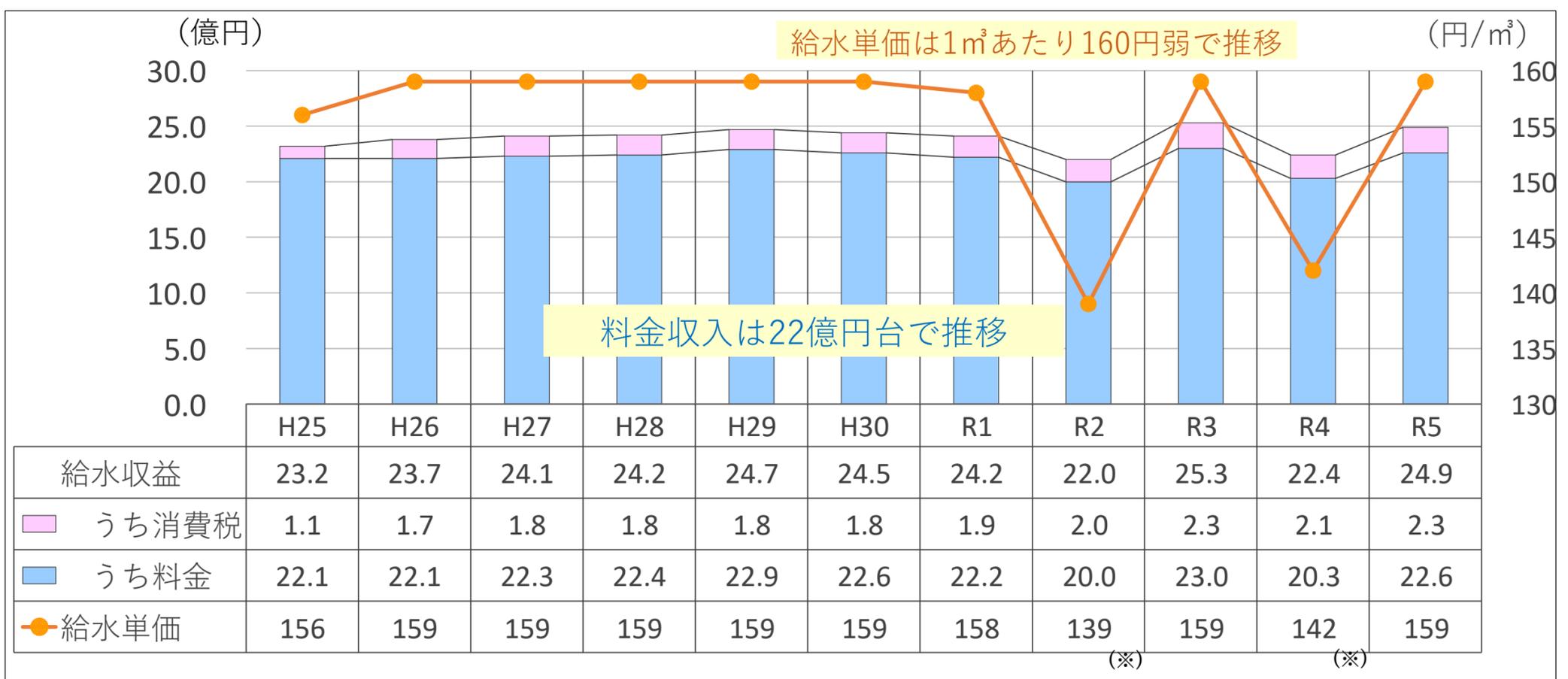
○給水収益 対前年度比（単位：千円）

| 項目 | 令和5年度 | 令和4年度 | 増減 | 増減率 |
|-------|-----------|-----------|---------|--------|
| 給水収益 | 2,489,597 | 2,235,251 | 254,346 | +11.4% |
| うち料金 | 2,263,271 | 2,032,047 | 231,224 | +11.4% |
| うち消費税 | 226,326 | 203,204 | 23,122 | +11.4% |

▶ 主な増減理由

- 給水収益【+2億5千4百万円】（うち令和4年度物価高騰等対策事業
基本料金6ヵ月免除の影響による増 +2億7千5百万円）
（うち水需要の減少による減 ▲2千1百万円）

○給水収益の推移（平成25年度以降）（消費税込、単位：億円）



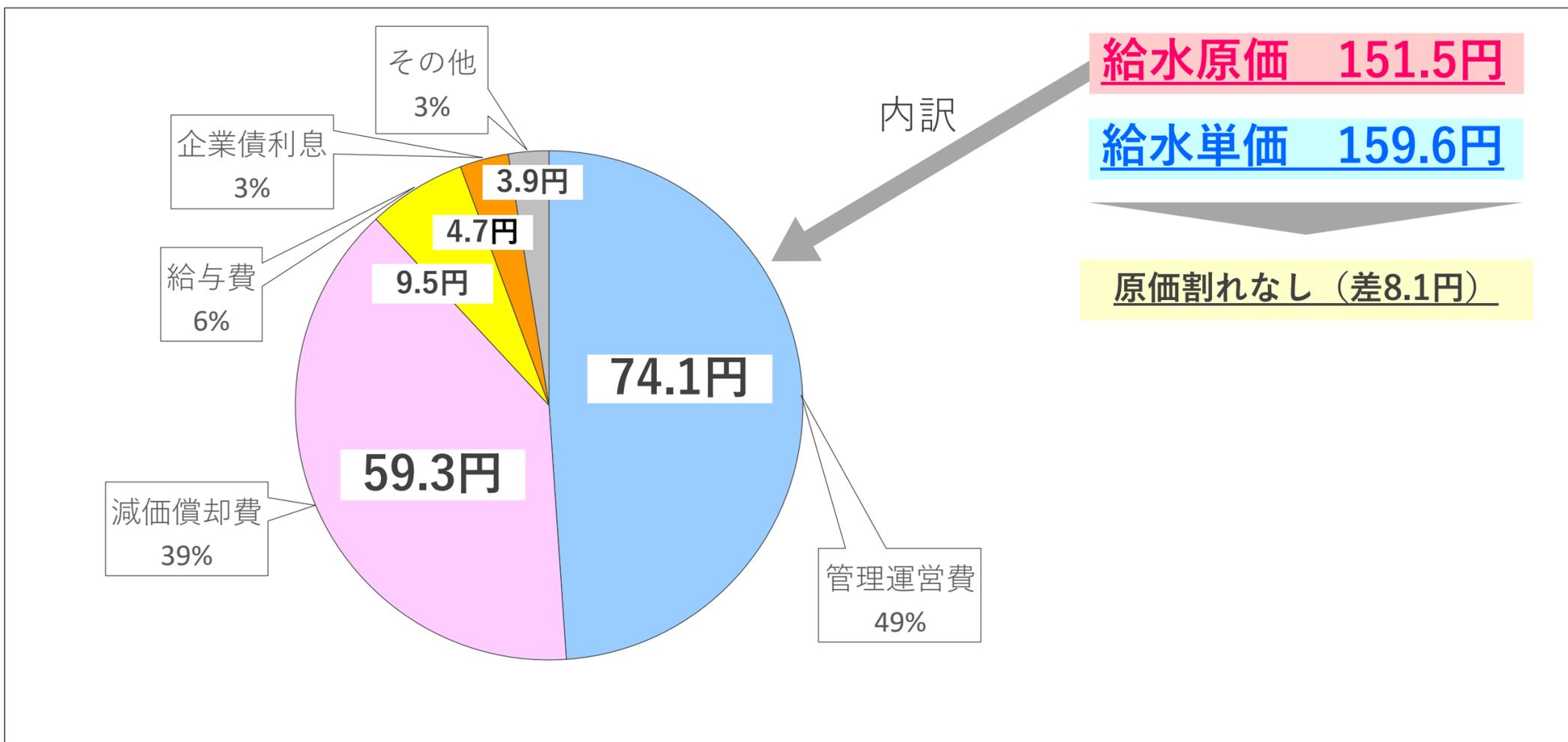
○料金改定の経過（合併後）

| 年度 | 項目 | 概要 |
|-----|--------|---|
| H20 | 料金統一① | 合併後3地区の格差を是正（第1段階）、改定率各地区平均+5.4%（統一前比） |
| H22 | 料金統一② | 合併後3地区の格差を是正（第2段階）、改定率各地区平均+20.8%（統一前比） |
| H26 | 消費税率改正 | 消費税率改正（5%⇒8%）に伴う改定 |
| R1 | 消費税率改正 | 消費税率改正（8%⇒10%）に伴う改定 |

(エ) 給水原価及び給水単価

給水原価は151.5円、給水単価は159.6円となっています。

○給水原価の内訳 (円/m³)



(オ) その他の主な経営指標

| 番号 | 名称 | 古河市 (R5決算) | 類似団体平均 (R4決算) | 全国平均 (R4決算) | 状況 | 説明 |
|----|--------------|------------|---------------|-------------|----|--|
| 1 | 経常収支比率 | 112.6 | 114.9 | 108.7 | 良 | 収益で費用をどの程度賄えているかを表します。100%以上となっていることが必要です。 |
| 2 | 流動比率 | 524.4 | 460.0 | 252.3 | 良 | 1年以内に支払う債務に対する現金の状況を表します。100%以上であることが必要です。 |
| 3 | 企業債残高対給水収益比率 | 262.4 | 295.0 (262.7) | 268.1 | 良 | 給水収益に対する企業債残高の割合で、企業債残高の規模を表します。数値基準はありませんが、他団体等との比較により状況を把握する必要があります。 |
| 4 | 料金回収率 | 105.3 | 94.9 (106.5) | 97.5 | 良 | 給水の費用がどの程度給水収益で賄えているかを表します。100%以上であることが望ましいとされます。 |

※括弧内数値は、物価高騰等対策による基本料金免除の影響額を除いた場合

- ▶ いずれも基準値を上回っていると同時に、類似団体や全国平均よりも良い水準であることから良好といえます。
- ▶ 現在は良好な状況ですが、人口減少の進行や施設更新時期の到来など、経営環境の悪化が予測されることから、中長期的な視点で経営見通しの把握に努めてまいります。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災地に対し、1月から3月にかけて計4回の応急給水隊を派遣しました。古河市は石川県輪島市を担当し、避難所や医療機関等での応急給水活動により、会計支出総額387万円の支援を実施しました。

(ア) 派遣概要

| 派遣 | 期間 | 派遣内容 | 支援先 | 給水量 (m ³) |
|-----|-----------------|--------------------------|------------------|-----------------------|
| 第1次 | 1/18～1/23 (6日間) | 職員4名 給水車1台 サポート車1台 | 避難所、医療機関 | 8.3 |
| 第2次 | 2/3～2/8 (6日間) | 職員4名 給水車1台 サポート車1台 | 避難所、医療機関 | 13.9 |
| 第3次 | 2/19～2/24 (6日間) | 職員4名 給水車1台 サポート車1台 | 避難所、医療機関、 消防署 | 23.7 |
| 第4次 | 3/14～3/21 (8日間) | 職員4名 給水車1台 サポート車1台 | 避難所、医療機関、 消防署 | 22.7 |

(イ) 活動及び被災地の様子



被災者への給水



避難所給水タンクへの給水



大きく破損した配水管



歪んだ道路